

別紙 1

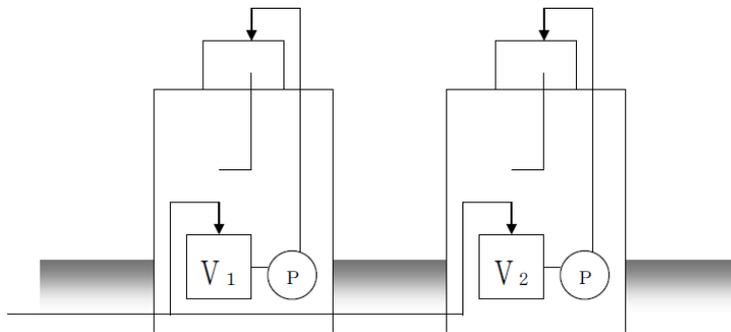
「有効容量の計算方法」

- 1 最高水位及び最低水位は、設計図等に記載されたものを確認し、次により定める。
  - (1) 最高水位は、受水槽の定水位装置によって決定されるハイウォーターレベル (H. W. L) の水位とする。
  - (2) 最低水位は、受水槽内にある揚水管の吸込管端から揚水管径の 1.5 倍上部の水位とする。

2 2 以上の水槽を有する場合等の有効容量は、次により算定する。

- (1) それぞれの受水槽に係る給水系統が相互に連絡されていない場合 (図-1)

(図-1)



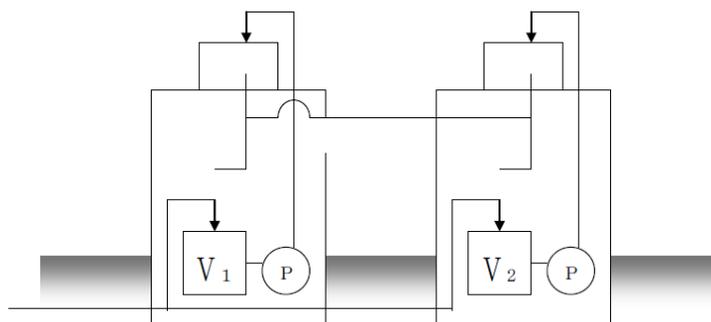
それぞれの受水槽に係る給水系統が個々の独立した簡易専用水道であり、有効容量は、それぞれについて  $V_1$  及び  $V_2$  とする。

$$\text{有効容量} = V_1$$

$$\text{有効容量} = V_2$$

- (2) それぞれの受水槽に係る給水系統が相互に連絡されている場合 (図-2)

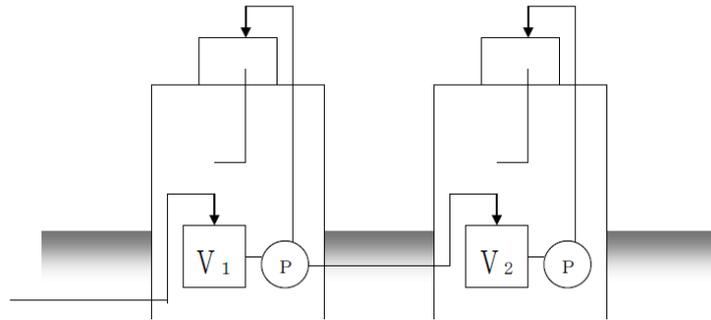
(図-2)



$$\text{有効容量} = V_1 + V_2$$

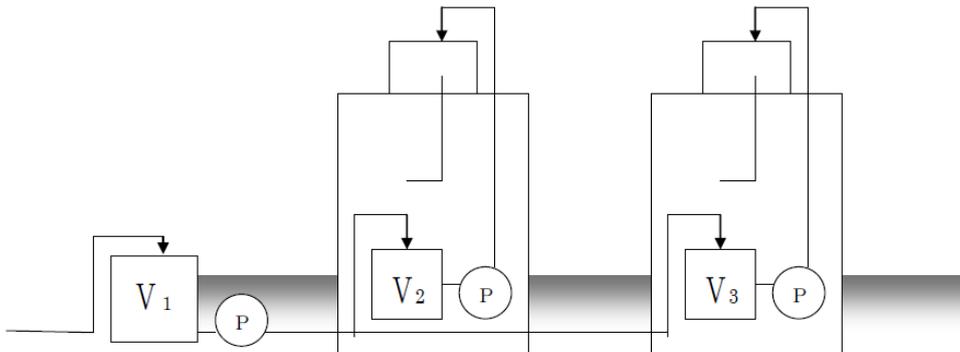
(3) それぞれの受水槽が相互に連絡されている場合 (図-3、図-4)

(図-3)



$$\text{有効容量} = V_1 + V_2$$

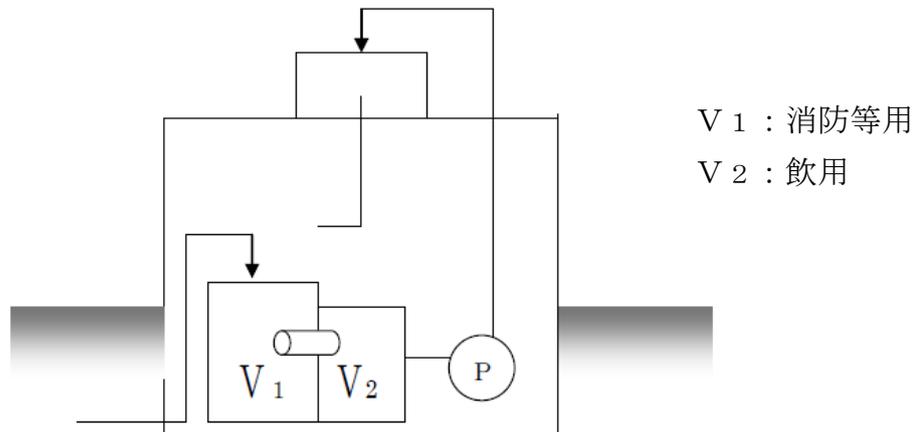
(図-4)



$$\text{有効容量} = V_1 + V_2 + V_3$$

(4) 消防用等飲用以外の目的に設置された水槽と飲用に供する水槽が連絡されている場合 (図-5)

(図-5)



$$\text{有効容量} = V_1 + V_2$$